



カケハシ・プロジェクト 有識者とのオンライン意見交換 フォローアップ事業の記録

1. プログラム概要

【目的・概要】

今年度のカケハシ・プロジェクト参加者代表による成果発表と有識者とのパネルディスカッションを通じて、カケハシ・プロジェクトの事業成果を可視化し、有識者や同窓生からの提言や助言を得ること
で、今後の事業運営に活かすことを目的として実施しました。

また、米国及びカナダの同窓生がオンラインで一堂に会し、ネットワーキングを行うことによって、日本への関心を維持し、同窓生同士のつながりを強化するとともに、「架け橋」としての意欲を高めました。

【参加者】有識者 2 名、事業拠出先 2 名、同窓生 22 名 合計 26 名

■ パネリスト

《有識者》

1. 駐日カナダ大使館 広報・教育担当 ジャン＝フランソワ・ルノー 一等書記官
2. アメリカ・カナダ大学連合日本研究センター ブルース・バートン 所長

《事業拠出先》

1. モーリーン・アンド・マイク・マンスフィールド財団 フランク・ジャヌージ 理事長兼 CEO
2. カナダ・アジア太平洋財団 ショーン・ジョーンズ プログラムマネージャー

《同窓生代表》

2025 年度招へい（米国・カナダ）プログラム参加者 4 名

1. マーカス・アントニオ・グラント 氏（日本語弁論大会成績優秀者招へい）
2. アレハンドラ・ルイサ・アコスタ 氏（ラテン系若手リーダー招へい）
3. アレックス・サルコジ 氏（日本語学習者招へい）
4. ベンジャミン・ファウスト 氏（カナダ若手リーダー招へい）

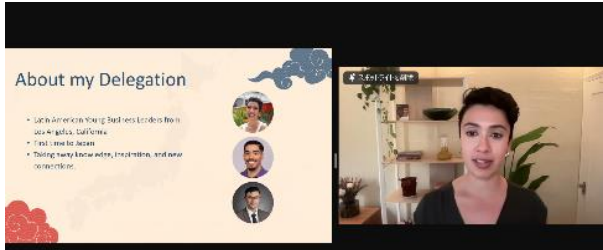
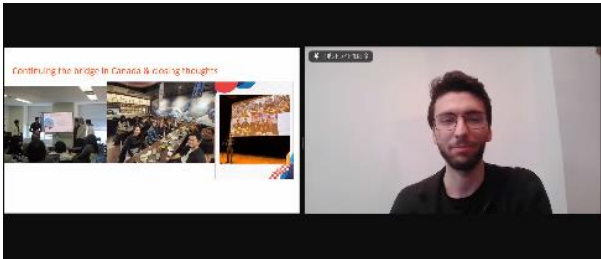
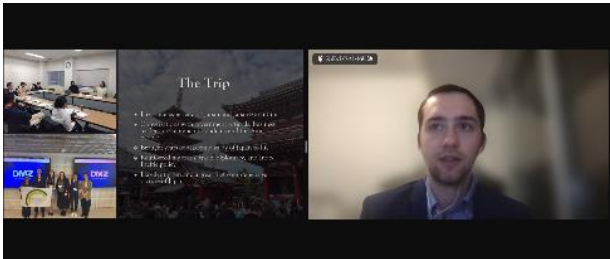
- 米国及びカナダのカケハシ・プロジェクトの同窓生（2025 年度までの参加者）合計 18 名
（内訳）米国 15 名（大学生・大学院生 5 名、社会人 10 名）
カナダ 3 名（大学生・大学院生 3 名）

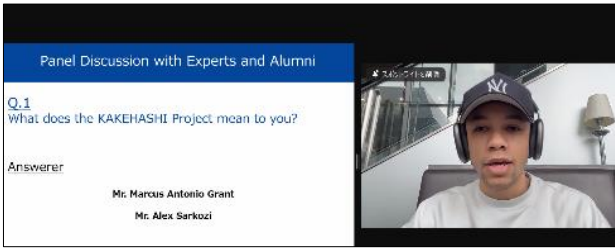
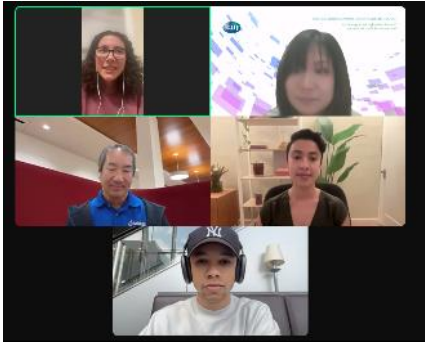
【日程】

■ オンライン有識者会議：2026 年 3 月 27 日（水曜日）

1. 有識者及び事業拠出先関係者紹介（一般財団法人日本国際協力センター（JICE））
2. 挨拶
外務省北米局北米第一課 原田 清太郎 外交実務研修員
3. カケハシ・プロジェクト事業概要説明・今年度事業の報告（JICE）
4. 同窓生代表からの発表・質疑応答・有識者及び事業拠出先関係者からのコメント
5. パネルディスカッション
 - ① カケハシ・プロジェクトはあなたにとってどのような意味を持ちますか。
 - ② 同窓生ネットワークを強化していくために必要なことは何だと思えますか。
 - ③ グローバルな情勢が大きく変化し続ける中で、今後、日米加（三か国）間の協力はどの分野で強化するべきだと思えますか。
 - ④ 日米加関係の改善において、若い世代はどのような役割を果たすことができると思えますか。
6. 有識者及び事業拠出先関係者による総評
7. 記念撮影
8. 閉会
9. 【交流】カケハシ同窓生ネットワーキング

2. 記録写真

	
【同窓生代表からの発表】質疑応答の様子 マーカス・アントニオ・グラント 氏	【同窓生代表からの発表】 アレハンドラ・ルイサ・アコスタ 氏
	
【同窓生代表からの発表】 アレックス・サルコジ 氏	【同窓生代表からの発表】 ベンジャミン・ファウスト 氏

	
【パネルディスカッション】有識者と同窓生	【パネルディスカッション】有識者と同窓生
	
【記念撮影】	【交流】カケハシ同窓生ネットワーキング

3. パネルディスカッションでの意見（抜粋）

① カケハシ・プロジェクトはあなたにとってどのような意味を持ちますか。

- ・ カケハシ・プロジェクトは、私にとって人と人、そして組織と組織の間に真に長期的なつながりを築くことを意味します。単に日本を訪問することにとどまらず、異なる視点や価値観を理解し、その関係を継続的に育み、できる限り多くのことを学ぶ機会だと考えています。また、異なるサブカルチャー同士を結ぶ架け橋となり、新たな挑戦を重ねていくことも、このプロジェクトの重要な意義だと思います。
- ・ カケハシ・プロジェクトは、異なる二つの国、そして異なる背景を持つ人々の間に橋を架ける取り組みであると感じています。特に、大きな違いが存在し、その調和が難しい状況においてこそ、最も重要なのは相手を理解しようとする姿勢だと思います。その相互理解こそが、持続的で意味のある関係を生み出す基盤になると考えています。

② 同窓生ネットワークを強化していくために必要なことは何だと思いますか。

- ・ オンラインでの参加が多く、ソーシャルメディアでさまざまな人々の経験についての意見が共有されていることを高く評価しています。それを継続することは非常に役立つと思います。今、あるかどうかはわかりませんが、ニュースレターは、さまざまな地域から、米国、カナダ、または日本で日本との関係を続ける機会を探ることができると思います。皆さんの多くが日本との関係を支援してくれていると思いますので、そのような機会を見つけるのを引き続き支援することは非常に役立つと思います。また、米国やカナダの姉妹都市を活用して、機会を見つける方法もあると思います。
- ・ 同窓会ネットワークでの私の経験は非常に良いものでした。ニュースレターがあって共有できると素晴らしいと思います。私自身の経験から、帰国した際に多くの人からさまざまな機会について尋

ねられ、できる限り共有しようと努めてきましたが、ニュースレターがあればもっと共有できると思います。カナダ・アジア太平洋財団がトロントで、同窓生同士をつなぐオンラインイベントでネットワーキングを実施することは、長期的なつながりと継続的な日加関係の構築に不可欠だと思います。また、米国でもこのようなイベントを継続して開催する価値があると思います。

③ グローバルな情勢が大きく変化し続ける中で、今後、日米加（三か国）間の協力はどの分野で強化すべきだと考えますか。

- ・ まず、今年 3 月のカナダ首相の来日を受けて、日本とカナダの二国間関係は「包括的戦略パートナーシップ」へと格上げされました。この新たなパートナーシップは、協力をさらに強化すべき分野、特に安全保障・防衛分野を明確に示しています。現在の地政学的環境は緊張の高まりや、ルールに基づく国際秩序への圧力の増大により急速に変化しており、安全保障・防衛に対する備えを強化する必要性はこれまで以上に高まっています。この分野は、米国を含めた三国間で共通の優先課題として、地域及び国際社会の安定をともに促進できる重要な分野だと考えます。

第二に、経済分野での協力強化が挙げられます。日本、カナダ、米国の繁栄を確保するためには、強靱で、イノベーションを妨げず、信頼に基づいたパートナーシップによるサプライチェーンの構築が不可欠です。カナダ首相は最近のインタビューにおいて、日本とカナダが、日本のエネルギー転換を支える長期的かつ信頼できるパートナーとして、安全で持続可能なサプライチェーンを構築していく意向を強調しました。この点も、米国を含めた三国間協力が今後さらに拡大できる分野であると考えます。

最後に、人と人とのつながりや文化交流の分野です。日本とカナダの外交関係樹立 100 周年が近づく中で、カケハシ・プロジェクトのような人的交流プログラムは、三国間協力の真の基盤を築く重要な役割を果たしています。こうした文化的・人的な交流を通じて相互理解と友好を育むことが、先に述べた戦略的な協力を可能にする長期的な関係につながると考えます。

- ・ 実は今日まで、カケハシ・プロジェクトがどれほど充実しているかを知らず、本日非常に感銘を受けました。青少年交流の重要性を実感し、このプログラムがもっと広がるといいと思っています。私はキャリアのほとんどを高等教育で主に学部生や大学院生の指導・メンターとして過ごしてきました。一人の人間にとって、10 代後半から 20 代前半の経験は本当に有益で、若い頃にこのようなプログラムに参加できるということは一生心に残る経験になることを知っています。異文化のひととの友情、ホームステイの機会、イベントへの参加など、たとえ 1 週間でも他国へ行くことは、その人の残りの人生にずっと残るでしょう。そのような経験から非常に強固な関係を築くことができ、カナダ、米国、日本は、将来三か国が直面するいかなる課題にも耐え、前向きに転換することができるでしょう。

④ 日米加関係の改善において、若い世代はどのような役割を果たすことができると思いますか。

- ・ 若い時期に国際的な経験をすることは、後になって思いもよらぬ形で価値を発揮することがあると思います。私が 18 歳で中国を訪れた当時、唯一の通信手段は国際郵便で、手紙が届くまでに 3 週間以上かかりました。それに比べ、現在の若者は Zoom などのデジタル技術を通じて、3 か国・2 大陸を瞬時につなぐことができます。つまり、今の若い世代は、カケハシ・プロジェクトのようなプログラムを通じて築いた人間関係を、継続的に活かすことができる環境にあります。ただし、その出発点となる最初の人間関係は非常に重要であり、それはテレビやオンラインだけでなく、リアルタイ

ムで人と人が直接関わることでこそ深まるものだと思います。若者がこのような形で国境を越えて関わることは、外国人嫌悪や有害なナショナリズム、孤立主義を避ける一つの方法にもなり得ます。若い時期に国際交流を経験することは、日米加関係の将来にとって、非常に高い投資対効果を持つものだと思います。

- ・ 毎年、カナダ、米国、日本の若い参加者たちが、見慣れない空間に足を踏み入れ、関係を築き、静かに外交の役割を果たしているのを目にします。そして、若者が最も力を発揮するのは、システムの頂点ではなく、その底辺であると私は信じています。変化は、上から下へ、ではなく下から上へと構築される方が、はるかに持続しやすいのです。政府は協定に署名することはできますが、信頼、共感、そして長期的な連携は、一人ひとりの人、そして会話を通して築かれるものです。カケハシ・プロジェクトのような青少年交流が重要なのは、まさにこの点にあると思います。カケハシの参加者から一貫して聞くのは、「現地の人々と会って直接自分の目で見るまで、日本やカナダを本当に理解していなかった」ということです。交流は、抽象概念やステレオタイプを名前、顔、関係に置き換えます。これらの非公式なネットワークは、最も必要とされるときに公式な協力を容易にする組織になりえます。若者は国際関係を人間味のあるものにし、レトリックではなく外交と信頼を基盤とし、ボトムアップで人から人へと働きかけます。私たちは、カナダ・米国・日本関係が不確実性、混乱、変化に耐えうるほど強靱であることを確実にするために協力します。

実施団体：一般財団法人日本国際協力センター（JICE）